28年度卒業式 式 辞

今日は桃の節句です。梅について桃が咲き始め、日増しに春めいてくる今日の良き日に卒業式を迎えた178名の皆さん、卒業おめでとうございます。皆さんは一人ひとりが様々な形の高校生活を経験し、それぞれの思いを胸に今日の卒業式を迎えていることだろうと思います。そんな記念すべき日に、香川県教育委員会から本田委員様、県議会を代表して花崎県議会議員、中條同窓会長、そして歴代の本校校長、地元中学校校長の皆様をはじめ、多くの方々がここにご臨席され、皆さんの門出を祝って下さっています。来賓の皆様に対して卒業生と共に深く感謝し、お礼を申し上げます。

この1年間、全日制のみなさんは仮校舎で学校生活を送りました。定時制のみなさんも工事のために登下校時の経路が変わったりして、色々な点で不便だったり不自由だったかも知れませんが、しかし、十分とは言えない環境をものともせず、みなさんが毎日勉学に励み、友人との交流を深めていっている姿を私はよく目撃しました。むしろ、仮校舎での経験によって身についた集中力や辛抱強さが、将来役立つことを大いに期待しています。昨日、みなさんは新校舎に初めて第一歩を記した生徒となることができました。そして、みなさんは取り壊された旧校舎を十分に経験している最後の学年です。これから、旧校舎の記憶は人々の間で年々薄れてくるかも知れませんが、みなさんはしっかりと記憶し伝説として語り継いでいってほしいと思います。

さて、複雑で高度情報化した現代の社会は、便利で可能性の広がる社会である反面、見通しの悪い不安定な要素の多い社会でもあります。何が正解なのか分からない、むしろ答えがなかったりたくさんの方が答えがあったり、これまでの常識が通用しないような時代です。難関大学に合格した、一流企業に就職できたということが人生を豊かにする保障があるかということそれも全く不確かです。みなさんは、これまで学校の中で、正解と不正解をはっきりと教えてくれ導いてくれる世界に住んでいました。しかし、これからは、自分自身の判断で、自力で正解の道を選び取らなければなりません。その際、高校時代に苦労したこと、悩んだこと、辛い思いをしたことなどが大いに役に立ちます。そんな困難なことを経験した人こそ、物事を正しく多面的に判断したり、他人の気持ちを推し量ることができるからです。「若者に最も必要なことは試練である。」といった哲学者がいます。「向かい風の中を歩め」といった詩人がいます。若い時の失敗や挫折は、将来のために欠かすことのできない財産となり自らを高める糧となるものです。失敗できることこそが若者の特権でもあります。どうか失敗を恐れず様々なことに大胆にチャレンジしてってください。その選択が正しいものである場合、今度は助けてくれ味方になってくれる人が必ず現れるものです。「その選択が正しかった」と自分で後から思えるような道を選び、堂々と歩んでくれることを願っています。

多くの卒業生が坂道を上り通ってきた正門は、長い間、工事のため閉まっていたましたが、皆さんの卒業を祝い、すがすがしく送り出せるよう、今日は大きく開いています。母校はいつも扉を開いて皆さんの来校を待っています。たとどこにしようとも、いつの日か必ずふるさとに帰り、正門を通過して新しくなった母校に再び帰ってきてくれることを楽しみにして待っています。

終わりにになりましたが、ご家族の皆様にはこれまで長い間、お子様を育ててこられた御苦労に深く敬意を表します。悩んだり迷ったりしたことも幾度かおありだったことでしょうか、お子様は無事に卒業日を迎えることができました。職員一同、みなさまと同じくお子様たちの成長を心

よりうれしく思うとともに改めてお慶び申し上げます。

本校から巣立ち行く卒業生の前途が輝かしいものとなることを願いつつ、この会場にご臨席の全ての皆様方のますますのご健勝とご多幸を祈念しまして式辞といたします。

平成29年3月3日